

◆企画名	<u>Welcome to Peer 2023</u>
日程	<u>2023年6月1日(木) 13:00~16:10</u>
場所	<u>千里山キャンパス凜風館4階ミーティングルーム</u>
参加者数	<u>20名(ピア・サポーター7名、研修生10名、シニア・サポーター1名、 TA2名)</u>

## 目的

ピア・コミュニティについての理解を深めるとともに、他コミュニティについて知り、ピア・コミュニティ内の連携を強めることを目的とする。また、ピア・コミュニティの学生同士の親睦を深めることで、よりコミュニケーションをとりやすい関係づくりに繋げる。

## 内容

3つのパートに分割し、それぞれの運営を行った。

### 【第1部】

『ピア・サポート研修「ピア・サポートって何だろう？」』

ボランティア活動支援グループ職員によるピア・サポートの説明や自己分析など

### 【第2部】

『説明会』

ピア・コミュニティに存在するコミュニティの活動紹介

ピア・サポート活動をするうえで使用する施設や備品についてのルール説明

### 【第3部】

『交流会』

チーム分けをし、異なるコミュニティの参加者同士で交流

- ・カードゲーム「ito」(アイスブレイク)

- ・他己紹介ゲーム

## 効果

### 【第1部】

- ・特に新入生にとって、ピア・サポートの概念を知ることのできる良い機会になった。ボランティア団体との区別であったり、“当事者同士で解決していく”というピア・サポートの理念は今後の活動の大きな指針になる。
- ・自分自身の目標・なりたい人物像などを書き出すことで、より今後の学生生活へのモチベーションが向上し、どう行動すべきかの具体的なイメージが持てた。また、目標が曖昧であった学生も今の自分の状況を自覚し、これからの方向性を考えることができた。

### 【第2部】

- ・他コミュニティについて知り、自分のコミュニティと比較することで、所属するコミュニティに関する理解がより深まった。自分たちは何をしていけばいいか、どのようなアイデアだとコミュニティの特色を活かせるかについて整理できた。
- ・他コミュニティとどのように手を取り合えばよいかについて考えるきっかけになった。他コミュニティの特色も知ることで、自分たちだけで活かさないアイデアであったり、より高いレベルで活かせるアイデアがあった場合はコラボレーションすることができる気が付いた。

### 【第3部】

- ・まずは他コミュニティにどのような人物が在籍しているかを認識することで、よりピア・コミュニティ全体の活動への参加意欲が高まる機会になった。
- ・他コミュニティに所属する人の考え方やパーソナリティなどを、それぞれの質問の仕方や進行の仕方で見取ることができた。第2部と同様に他コミュニティ同士の交流を促すきっかけとなった。

## 改善点

### 【第1部】

- ・職員に対して連絡が遅くなり、職員と運営本部の双方がどのように進行していくのか本番当日ギリギリまで把握しきれていなかった。  
→当日までシミュレーションができていなかったため、事前にリハーサルなどが必要である。
- ・備品の準備が遅くなった。  
→経験を重ね、当日何が必要になってくるか想定して考える力を身に付ける。

### 【第2部】

- ・運営本部はより他コミュニティへの理解が必要だった。  
→活動報告や代表者会議だけではなく、より他コミュニティのメンバーの生の声を聴き、他コミュニティの活動に参加してみることも必要である。
- ・運営側の役割がない人の立ち位置が曖昧だった。  
→役割がある人へ意識が向きがちだが、役割がない人のスタンバイ位置、参加・不参加も詳細に決めることも必要である。

### 【第3部】

- ・参加者の出入りが激しく、把握漏れが生じた。  
→今回は3・4時限続けての企画だったため、途中退室・参加が多かった。申し込み時に途中退室などの確認はしていたが、当日の出欠確認時に改めて確認するなど工夫が必要であった。加えて、臨機応変に対応できる力が必要なため、経験を重ねてパニックにならないようにする。
- ・ファシリテーションが運営側の力量次第になる。  
→ノウハウの継承も必要だが、メンバーに関わらないマニュアル作りや文章化が必要である。

## 感想

特に新入生にとっては、他コミュニティとの交流ができる良い機会となった。しかし、せっかくピア・コミュニティとして全体の繋がりができても、継続して交流できなければもったいないように思う。もちろん、自分のコミュニティについて理解ができていない状態で、他コミュニティとコラボすることは難しいので、他コミュニティとの繋がりをづくり、今後の活動の中でコミュニティ同士が共同する“きっかけ”として可能性を残せるように参加者に示していきたい。

また、なぜ「Welcome to Peer」をするのか、という議論は毎年なされている。運営側が明確に目標設定をし、それによって得られるものは何かを具体的に示すことができれば、より満足度は高くなるように感じる。運営にとって大切なことは、全体の進行を円滑に進めるだけでなく、この企画の意義・役割を明確に与えることも含まれる。今後ピア・コミュニティ全体の活動を行う際、このことを特に意識していきたい。

